

名古屋外国語大学論集

第7号

特 集

名古屋外国語大学における 世界教養プログラムの現状と展望

The Current Situation and Future Direction of the World Liberal Arts Program at Nagoya University of Foreign Studies

2015年度に発足した世界教養プログラムは、1年次生を対象とする導入科目と、2年次生以上を対象とする応用科目からなる。発足当時は外国語学部生のみを対象とするプログラムであったが、2017年度より、現代国際学部および世界共生学部のカリキュラムにも組み込まれることになった。また本プログラムは、2019年度設立の世界教養学部においても、教養教育の重要な核となっている。

世界教養プログラムの導入科目は、「世界理解の方法」と「日本理解の方法」の2科目からなり、すべての学部において1年次生の必修となっている。外国語大学における重要な初年次教育の柱として、現在のところ学部ごとに授業運営がなされている。応用科目は、人文・学際・社会の三区分からなり、それぞれの区分がさらに4つのクラスターに分かれている。たとえば「人文」には「文化と歴史」「言語と翻訳」「芸術と表現」「宗教と社会」の4クラスターのもとに6つの科目が配置されている。2年次以降は、これら総計72のテーマの中から、それぞれの方向性に合わせて自由に科目を選択する仕組みである。

本特集は、発足5年目を迎えた世界教養プログラムの現状を報告するとともに、グローバル化が加速するなかで今後一層重要性が増すと思われる教養教育の展望を論じるものである。本特集をご提案いただいた論集委員会と、本プログラムを支えて下さった先生方に感謝の意を表します。

なお、世界教養プログラムは2020年度より、新規に発足した教養教育推進センターのWLAP部門のもとで運営されることになりました。